

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.12) 平成24年度:88～90.

救急外来の看護記録用紙を活用した継続看護の検討  
～新設した『継続看護等』欄に表現されたもの～

高畠郁代、伊藤尋美、長瀬経、柴山かおる

救急外来の看護記録用紙を活用した継続看護の検討  
～新設した『継続看護等』欄に表現されたもの～

旭川医科大学病院救命救急センター

高島郁代、伊藤尋美、長瀬経、柴山かおる

【はじめに】

A病院の救命救急センター外来（以下救急外来）では、専用の看護記録用紙を用いて記録を行っている。患者の反応や継続してほしい看護等の記載は少なく、今後必要と思われる看護を記載し、それらが病棟でも継続されるよう記録用紙に[継続看護等]欄を追加した。しかし、病棟看護師からは[継続看護等]欄を参考にしていないという意見は少なかったことから、まずは救急外来看護師の記録した内容を分析し、救急外来看護師が継続したいと考えた看護とは何か検証した。

【目的】

救急外来看護師が継続したい看護を明らかにする。

【方法】

- 1) 研究期間：2012年5月～2012年6月
- 2) データの分析方法：
  1. 2011年8月～2012年3月の救急外来看護記録から[継続看護等]欄の記録を抽出し、その内容を高橋らによる先行研究<sup>1)</sup>の「救急看護師の役割と能力」に関する8つのカテゴリーを用いて分類する。
  2. 記載内容とカテゴリー分類の判断に偏りやデータの意味の取り違えがないか繰り返し検討し、救急看護経験10年以上の第3者がその内容を検証した。
  3. 分類したカテゴリーから、[継続看護等]欄に表現された継続したい看護を明らかにする。
- 3) 倫理的配慮：看護記録の記載内容は個人を特定する記述を削除し、記録の記載者には口頭で説明し同意を得た。また、当院の倫理委員会の承認を得た。

【結果】

[継続看護等]欄の記載は1425例中567例あり、「救急看護師の役割と能力」に関する8つのカテゴリー中『救急看護技術』（429件）と『患者・家族への支援』（227件）に分類されるものが多かった。『救急看護技術』はフィジカルアセスメント・観察に関する項目が約半数を占め、現在出現している症状や今後起こりうる合併症等の観察の必要性が記載されていた。『患者・家族への支援』では患者自身よりも家族支援に対する記述が多かった。全体を通し『～が必要』というように今後必要な看護を記載しているものもあれば、看護師が見た・感じた患者や家族の印象、様子等の情報のみの記載もあった。

【考察】

[継続看護等]欄の記載内容は、高橋らの救急看護師の役割を担っていると判断出来たものが多かったが、分類を迷うような記載もあった。榎田ら<sup>2)</sup>は『看護記録は、記載する人の知識、価値観、何を大切にしながら実践活動を行っているかを映したもの』と述べている。[継続看護等]欄には、救急外来看護師が継続してほしい看護だけでなく、情報として自らの知識や価値観等から対象の把握に必要と判断した内容が記載されており、それらを自由に記載する部分として[継続看護等]欄が使用されていたと考えられる。また、榎田らは看護記録を『関係者が素早く対象者の問題点を把握できるような効率性も考慮する必要がある』と述べている。今後救急看護を外来から病棟へ継続する時に、患者・家族個人に必要な看護は何か対象の問題点を意識し、その関わりを記録に表すための検証を重ねたい。

救急外来の看護記録用紙を活用した  
継続看護の検討  
～新設した『継続看護等』欄に  
表現されたもの～

旭川医科大学病院 救命救急センターNS  
高畠郁代、長瀬経、伊藤尋美、柴山かおる

# はじめに

## ○看護記録について

救命センター外来  
(救急外来)

- ・専用の記録用紙
- ・手書き記載

救命センター病棟  
(救命病棟)

- ・電子カルテへの記載
- ・看護診断を使用  
(NANDA-I)

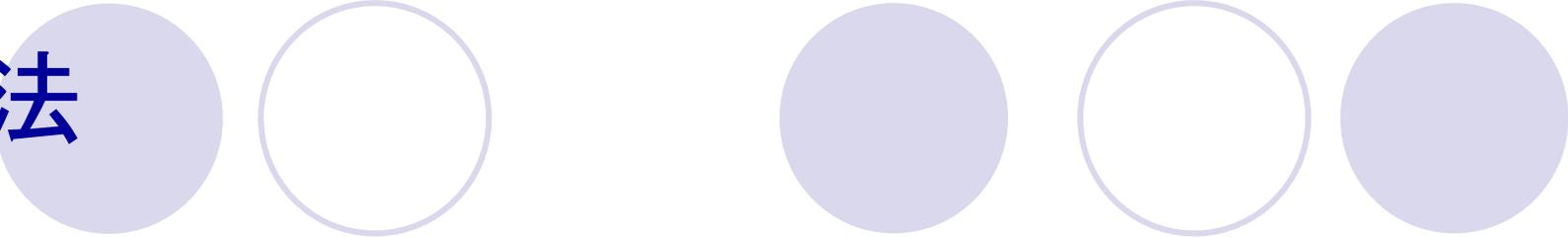
患者の反応, 継続  
して欲しい看護の  
記載が少ない

今後必要と思われる看護等  
が病棟でも継続されることを  
期待

救急外来看護記録に【継続看護等】欄を追加



# 方法



1) 研究期間: 2012年5月～6月

## 2) データの分析方法

1. 2011年8月～2012年3月分の【継続看護等】欄の記録を抽出。その内容を高橋らの先行研究内の「救急看護師の役割と能力」に関する8つのカテゴリーを用い分類。
2. 記載内容やカテゴリー分類の判断に偏りやデータの意味の取り違えがないか繰り返し検討。
3. 分類したカテゴリーから、【継続看護等】欄に表現された継続したい看護を明らかにする。

## 3) 倫理的配慮

看護記録の記載内容は個人を特定する記述を削除し、記録の記載者には口頭で説明し同意を得た。また、当院の倫理委員会の承認を得た。

# 「救急看護師の役割と能力」に関する 8つのカテゴリー

## ①意欲・態度・姿勢

→物事に対する気持ちや心構え並びに感情や表現の仕方など

## ②倫理的判断

→患者の自律性の尊重、患者にとって無害であること、有益であること、公正であること等を心がけた行為

## ③救急看護技術

→救急患者に望ましい結果をもたらすために知識と技術を適用すること。7つの下位概念〈患者中心の看護〉〈看護過程〉〈フィジカルアセスメント〉〈トリアージ〉〈救命技術〉〈診療の補助〉〈災害急性期の対応〉より構成

## ④プレホスピタルケア

→病院前救護における救急救命士および救急隊員との連携、看護師自身の現場出動と実践、さらに平時の市民教育としての活動を含む

## ⑤患者・家族への支援

→ 傷病・病態を重視しがちな救急医療現場において、患者や家族の不安や苦痛、危機状況への支援など

## ⑥救急医療における調整

→ 救急医療対応の迅速性と安全性を確保しながら、患者中心のケアを統合し実践するために提供するすべてのサービスを調整することであり、相談、協議、報告などによる

## ⑦教育的役割

→ 後輩・同僚看護師の指導、患者・家族の教育、他領域看護師ならびに一般市民に対する心肺蘇生術の教育など

## ⑧研究と専門性の育成

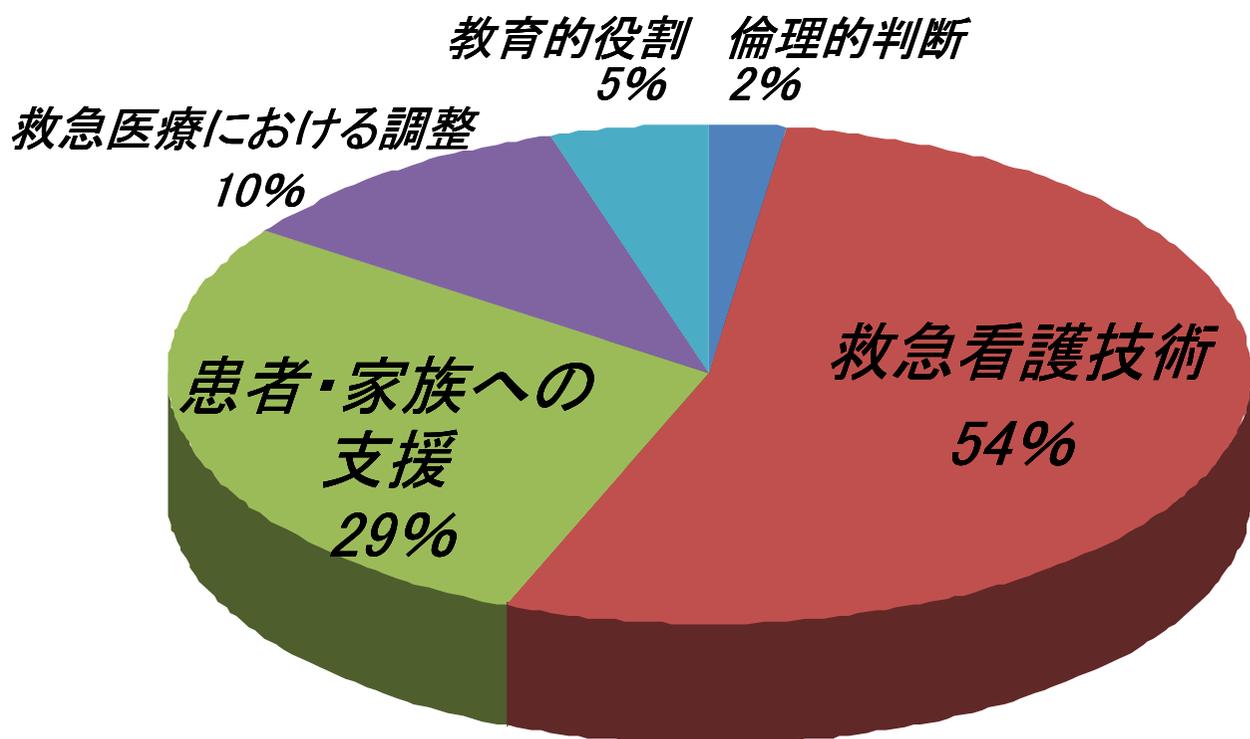
→ 救急看護領域における看護実践から科学的知見を得るための活動。救急看護実践における看護師の専門職としての位置づけ

※引用・参考文献

高橋章子, 館山光子, 長谷川陽子他, 救急看護師に期待される役割と能力に関する研究 その1, 日本救急看護学会雑誌, 6(2), p6-12, 2005

# 結果

継続看護等欄の記載は1425例中567例あった。



[継続看護等]欄への記載内容(カテゴリー別)

※1例につき複数記載あり

# 結果

## ○『救急看護技術』(429)

フィジカルアセスメントや観察に関する記載が約半数を占め、現在出現している症状や今後起こりうる合併症等の観察の必要性が記載されていた。



### ※記載例

低血糖前の症状として、昨日不明言動があった様子。  
前駆症状の観察を継続する。

明らかな外傷はないが、頭部打撲の可能性もあり、  
今後のレベル変化のモニターが必要。

# 結果

## ○『患者・家族への支援』(227)

精神的支援に対する記述が約7割を占め、患者自身よりも家族への記述が多かった。



### ※記載例

突然の発症で家族も動揺している。本人も失語あり、今後現状を認識するに従い不安が増強していく可能性あり。

妻は、医療者に対しては冷静に話をしているが、待合ではぼう然としている様子もあり、配慮が必要。

# 考察

## ● [継続看護等]欄の記載



看護師の主観

見た・感じた  
患者や家族の印象、  
様子等



自らの知識や価値観等から、

対象の把握に**必要**と判断し記載していた

# 結論

- A病院の救急外来看護師は、「救急看護師の役割と能力」で分類される、

**【救急看護技術】**

**【患者・家族への支援】**

を特に継続したい看護ととらえていた。

